

## 全身性エリテマトーデス (SLE)

▶ 腎障害や中枢神経障害に注意

全身性エリテマトーデス (SLE: systemic lupus erythematosus) は、特に多くの臓器に症状をきたす膠原病です。

### 概要

病名は「全身 (systemic) の症状と、狼 (lupus) に噛まれたような紅斑 (erythematosus) が生じる疾患」という意味です。一部の臓器では

- ・免疫複合体の沈着がみられ、これによる臓器や組織の傷害が一因と考えられています。
- ・15~40歳代の女性 (妊娠可能な時期) に多い疾患です。

### 症状

SLEにより生じる特徴的な症候には「ループス」を付します。病名の由来でもある皮膚症状 (皮膚ループス) は、頻度が高く特徴的で

- ・蝶形紅斑 (顔面に生じる左右対称の紅斑)
- ・光線過敏症 (日光により発疹が生じる)
- ・円板状皮疹

などの所見は診断につながります。

#### ・ループス腎炎

は、糸球体に免疫複合体が沈着してⅢ型アレルギー反応 [106] が起こる病変です。腎障害が生じ

- ・蛋白尿, 血尿

などがみられます。

SLEによる中枢神経障害を

- ・神経精神ループス

といいます。症状は多彩ですが

- ・けいれん, 精神症状 (抑うつ, 意識混濁)

などの頻度が高いです。

運動器の症状として

- ・多発関節炎による関節痛

がみられますが、関節の破壊や変形はまれです (10年以上の長い経過では変形をきたすことがあり、これをジャク変形という)。

腎障害や中枢神経障害の程度は予後を規定するため、特に重視されます。

### 検査所見

炎症のため赤沈は亢進しますが、CRPは正常のことが多いです。

#### 血液検査で

- ・汎血球減少 (赤血球, 白血球, 血小板のうち2系統以上で減少がみられること) を認めます。貧血は慢性炎症が原因の場合、Ⅱ型アレルギーが関与する自己免疫性溶血性貧血 (AIHA) [120] の場合があります。後者では
- ・直接クームス試験陽性 [88] となります。白血球のなかではリンパ球が減少するのが特徴的です。

免疫学的検査では、免疫複合体の形成により補体が消費されるため

- ・血清補体価の低下 [112] を認めます。自己抗体では
- ・抗dsDNA抗体, 抗Sm抗体

などの抗核抗体の出現がSLEに特徴的です。抗SS-A抗体など特異度の低い自己抗体も高頻度に認めます。血清補体価および抗dsDNA抗体は、疾患活動性の指標であり、診断や治療において重要です。

### 治療

#### ・副腎皮質ステロイド

を用い、必要に応じ免疫抑制薬を併用します。疾患活動性や腎障害の程度などに基づき方針を決定します。

### SLEと妊娠

抗SS-A抗体などの自己抗体が陽性の母親から出生した児は、紅斑や心伝導障害を呈することがあり、これを

- ・新生児ループス

といいます。母親の自己抗体が胎盤を通過して胎児に移行するためと考えられています。なお新生児ループスという名称ですが、母親がSLEとは限らず、シェーグレン症候群や混合性結合組織病の場合もあり、母親が膠原病を発症していないこともあります。

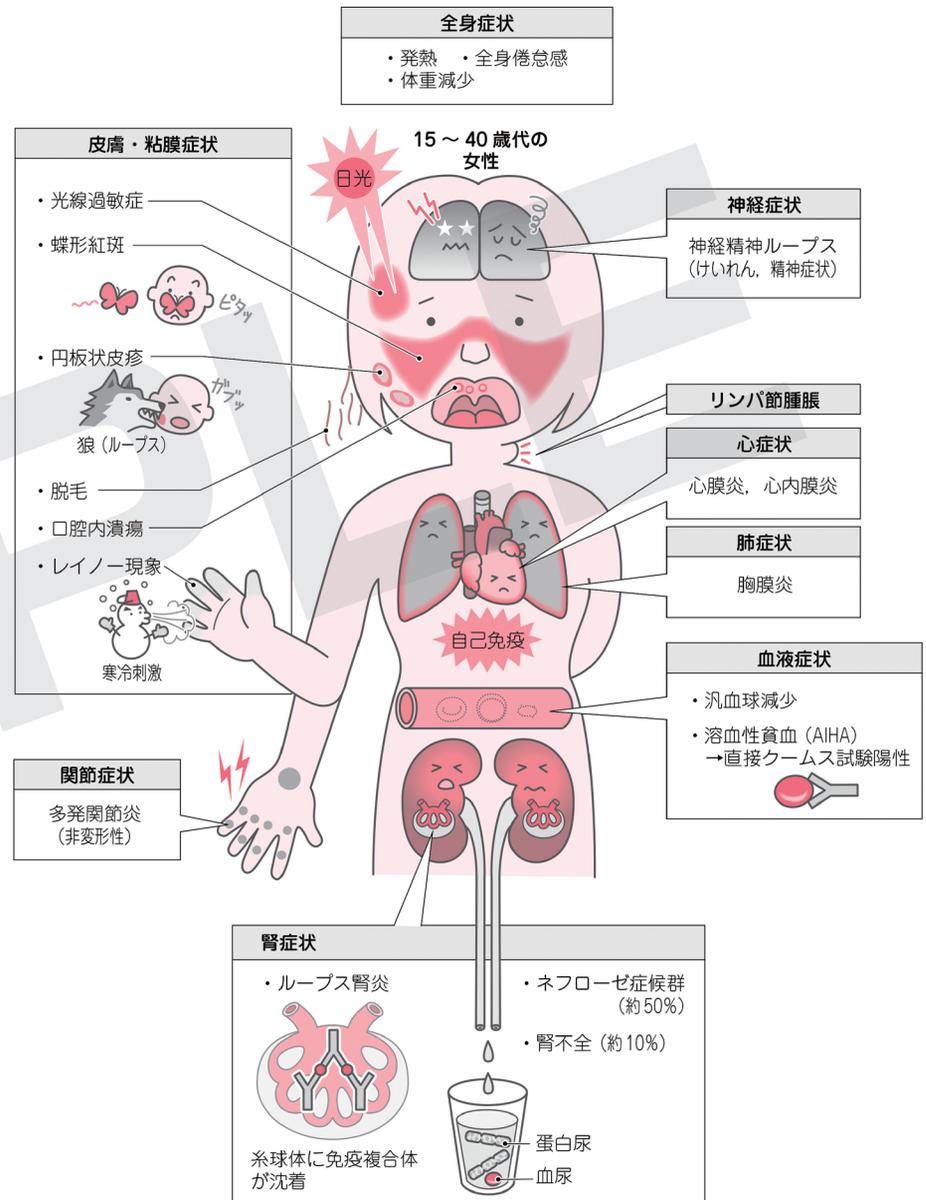


これは別に、SLEでは

- ・抗リン脂質抗体症候群 (血栓症を生じる自己免疫疾患)

を合併する確率が高く、この場合は胎盤の虚血などにより習慣性流産を生じやすいです。

## 55 全身性エリテマトーデス (SLE)



自己抗体 [抗dsDNA抗体 (+), 抗Sm抗体 (+), 抗SS-A抗体 (+) など], 血清補体価 ↓, 汎血球減少

理解を深める疾患編